

よのちこ一りな上 心し大行菩をの常かと歩か天で生かい はな「三、
うを合と切まるにこの救慈道薩感ををらか前ら上心心一る六行る。右
心見わはにす心出うこは悲生心ず学観な体進よ心がはる心道学
がれせあ接か一た見とんそ活とる問ずか験しくはき癡で、に六右
ければてりすら学一て言とののはの的るなすて見常よへあす即前道の十界の
れよいまる。問声來うすま心妻ににとかる自えにうおりかちし心理は心
ばいいるせ心つし聞まのるまと子人悟は見と分ま喜慢ら地た理は心
よわわんとまた心すで心のものを生ろ即つかのすんにか餓経獄場
いわけ。いりい」とす。心い含をうちけ実心。でな鬼験か合一理
のでで人つ四との皆 萬でえめ体と学に行にしいる。即心しらで般は
ですす間て聖い状さ 民、る一驗す聞くしみかる。ちはて天あの仏
あり。か誰よのう態ん に仏で切でる的いよがし心人ち、ぐ貪い上る經教々
なりらしい心心との 於様あの悟心にもうき四。間、ま道か験々學に補修する
ます。もではい今 偏心まをう一識でいかとれは羅。六平る所修する
べそ愛し愛 えの 破、し愛と方すあうけなら平心ば地つ常所修する
くの情よ情に心 出美とうを成での な即よそすのるり大てるはらは獄の心
ししい。もつあ状 おいうこつてり態 しちううる縁こまきいと外か詔 心理あるが、一層判
し愛美れていまは み情しは一るし六 と一。と心覚とすなる普に曲 即の理で
み情しは一るし六 をのい出切わよ道 い切仏すで心で。心。段あ静 ち場はは
し心心来をけうの なでをな見て。一 うの陀るあは人声で学のらかてと合普な聖判
いも持い。あ聖段 は々こでまじそ心りをかれこご欲瞋使のり易
いも持い。あ聖段 こをれあす無のますらまとく、つ心易
の愛はり。常に無する一す、畜いて 理く

は存とのこかすてに証ちつもい 人人活一か問るりん 事はた
必在いこれら。て毒こやと真う又ののをつな者のにて不実一の「此の十界の心理を基本にして、更に具体的に観察する。四、神秘である。洵に神秘であるがとし
ずいとは当自、素でく引赤地心社為しの社社のなす思は界が、十界の心理を基礎にして、更に具体的に観察する。九界を兼ねることである。洵に神秘であるがとし
誰た人で人然分おがすちいに獄理会にて悟会会社るね議正に てはす様とでこ發。やてなのの、ついり、会答。なに他
でしはす様とでこ發。やてなのの、ついり、会答。なに他
もま多。よい自つ生こに行る心上必くるに学そ。でここも持せい私。りえ分てすうなく。がかずし人よ間の乞あれと
つんよは自分し体るんう、こしる考通い社て打でなま事の い一できがよを人だ場どれて。えりる会解ちもどす実で
ます。よがかで次で長う医に心がをみ社の非しん済社こさが
り、ももにばき、上ものあてす相会にいいに、世がう
二実欲よむ。ほはもいぼに出すられ発くと、あ菩か、人ま売中験う
つ際をけさいがでかな爆おるとが、暖とる恵妊の経い
ほはもいぼに出すられ発くと、あ菩か、人ま売中験う
し欲つ取りし來か言と状な力入る薩い自のれ暴はす原
いのてなりうい態るツ間のや氣分社て力たる則
とないた心しいいとうで。腹で仏持だ会い等しこに
いいまい。まんつ、心何血とをあさちけ、るのかとな
う人せと餓うだも血にものな立りまを孤こ社社にでつ
料なんい鬼のそ腹液なか氣りてまにも独の会会泥おて
けん。う心でうをのつもが顔るす近つな世、棒わい
んて等心、すで立中ためさ色と。いて生を豊人する